

2026年4月14日

各位

会社名 マクセル株式会社
 代表者名 取締役社長 中村啓次
 (コード番号: 6810 東証プライム)
 問合せ先 コーポレート・コミュニケーション本部
 広報・IR部
 (TEL. 03-5715-7061)

特別利益の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）決算にて特別利益を計上するとともに、2025年4月25日に公表した2026年3月期の通期連結業績予想を修正することとしましたので下記のとおりお知らせします。

記

1. 特別利益の計上について

2026年2月4日付「連結子会社の異動(持分譲渡)に関するお知らせ」にて公表した、Wuxi Maxell Energy Co., Ltd.の持分譲渡に関して、2026年3月期決算において、関係会社出資金売却益として約29億円を計上する見込みとなりました。

2. 当期の連結業績予想数値の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

| | 売上高 | 営業利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1株当たり当期純利益 |
|------------------------------|----------------|---------------|-----------------|---------------|
| 前回発表予想 (A) (2025年4月25日公表) | 百万円 136,500 | 百万円 10,000 | 百万円 7,000 | 円 銭 162.32 |
| 今回修正予想 (B) | 129,500 | 7,900 | 8,200 | 200.56 |
| 増減額 (B-A) | △7,000 | △2,100 | 1,200 | - |
| 増減率 (%) | △5.1 | △21.0 | 17.1 | - |
| (参考) 前期実績 (2025年3月期) | 129,806 | 9,318 | 4,090 | 93.12 |

3. 修正の理由

2026年3月期の通期業績予想について、主に半導体関連製品の販売回復の遅延とエネルギーセグメントにおける原材料費の高騰などにより売上高は129,500百万円、営業利益は7,900百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は8,200百万円と、上記の前回発表予想に対して、売上高7,000百万円減、営業利益2,100百万円減の下方修正、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては特別利益の計上により1,200百万円増の上方修正を行いました。

修正後のセグメント別の売上高及び営業利益の前回予想との差は下記のとおりです。

【通期セグメント別業績予想】

単位：百万円

| | 売上高 | | 営業利益 | |
|---------|---------|---------|-------|--------|
| | 今回予想 | 前回予想 | 今回予想 | 前回予想 |
| エネルギー | 42,500 | 40,300 | 2,100 | 1,800 |
| 機能性部材料 | 32,600 | 34,300 | 1,500 | 1,900 |
| 光学・システム | 36,400 | 42,300 | 3,500 | 5,000 |
| 価値共創事業 | 18,000 | 19,600 | 800 | 1,300 |
| 合 計 | 129,500 | 136,500 | 7,900 | 10,000 |

(エネルギー)

原材料費の高騰の影響があったものの、車載用や医療機器用などの一次電池の販売が好調に推移したことにより、通期業績予想については売上高、営業利益ともに上方修正をしました。

(機能性部材料)

上期の粘着テープの苦戦を下期に挽回できなかったこと及び産業用部材が対前年では増収となったものの当初計画には届かなかったことから、通期業績予想については売上高、営業利益ともに下方修正をしました。

(光学・システム)

半導体関連製品の苦戦及び棚卸資産の評価損により、通期業績予想については売上高、営業利益ともに下方修正をしました。

(価値共創事業)

米国の関税措置の影響を受けた健康・理美容製品が上期に苦戦したことにより、通期業績予想については売上高、営業利益ともに下方修正をしました。

(注) 上記の特別利益および業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上